



流路変動の発現箇所と発現時期の 科学的な推定のための尺度の構築

2022年5月31日



安田 浩保

新潟大学 災害復興科学研究所・研究推進機構



2

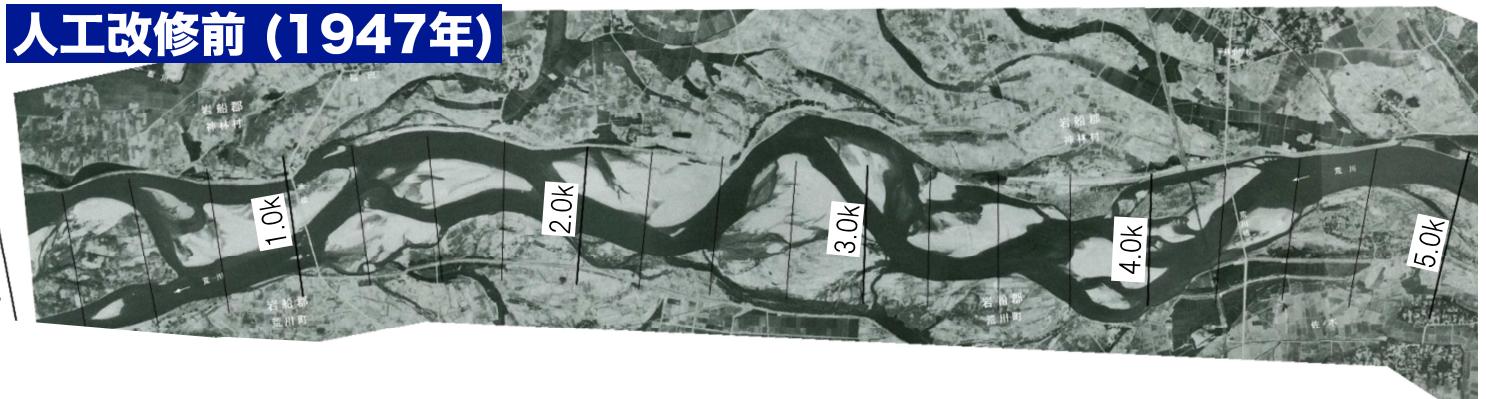
交互砂州による洪水時の危険性

平成29年7月豪雨 能生川



砂州河川の典型的な経時変化

人工改修前 (1947年)



人工改修後 (2011年)



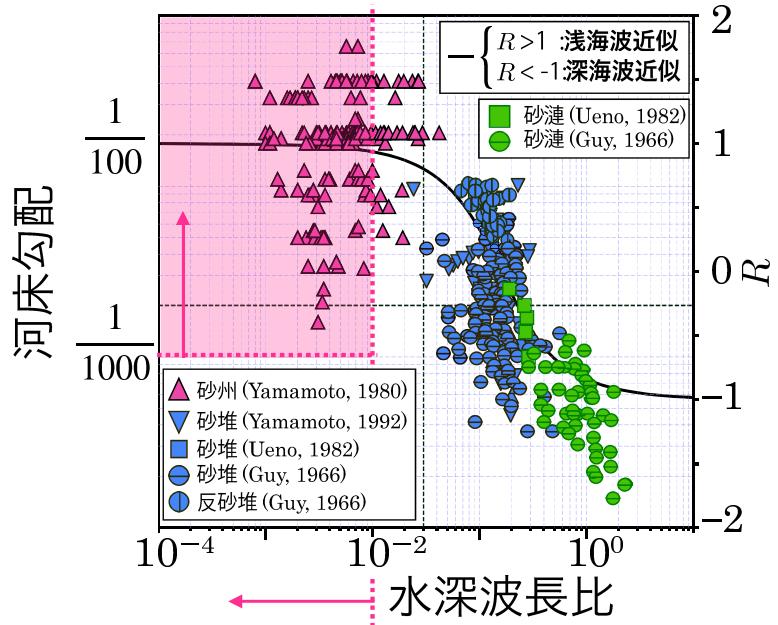
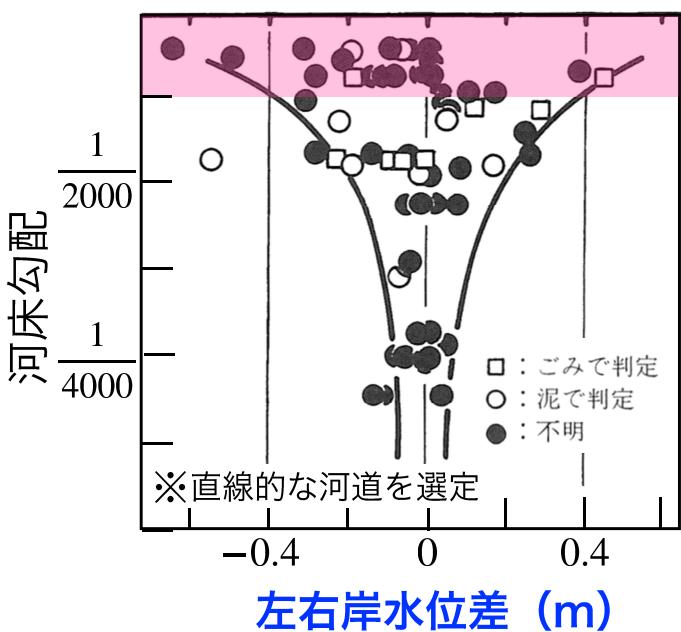
国土交通省 羽越河川道路事務所提供

交互砂州が流れに及ぼす影響とは？

交互砂州が流れに及ぼす影響とは？

山本らによる実河川の痕跡水位データ

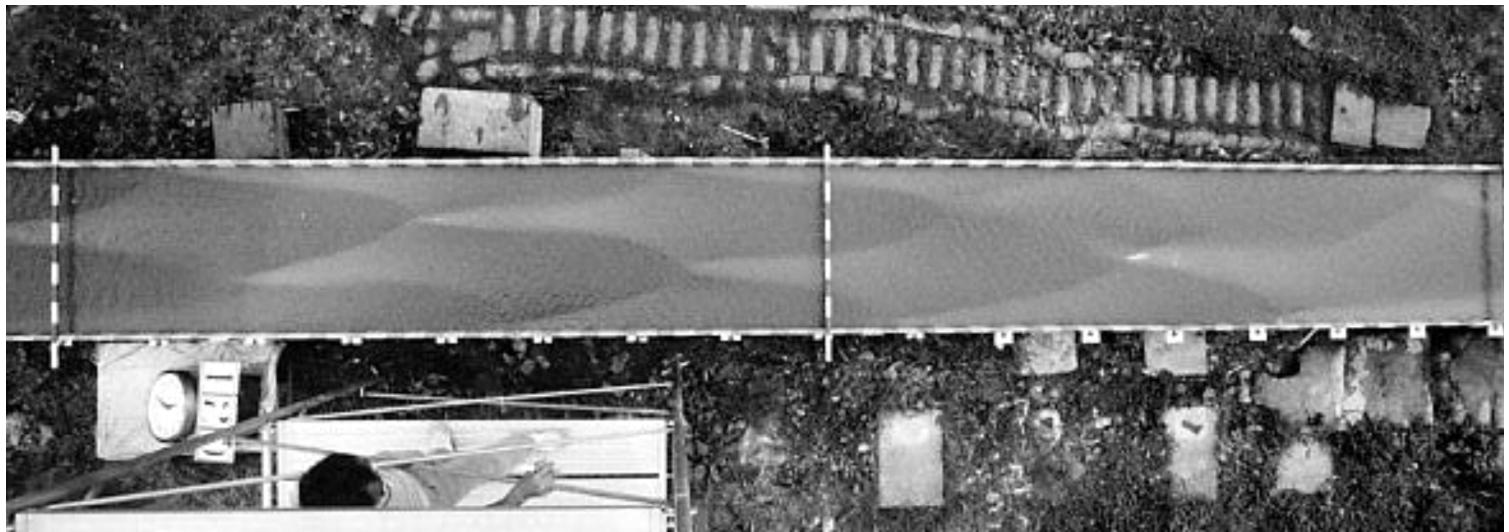
小関ら(2021), 岩佐ら(1968)の研究成果



交互砂州が流れに及ぼす影響は未解明

砂州研究の始まりと現在

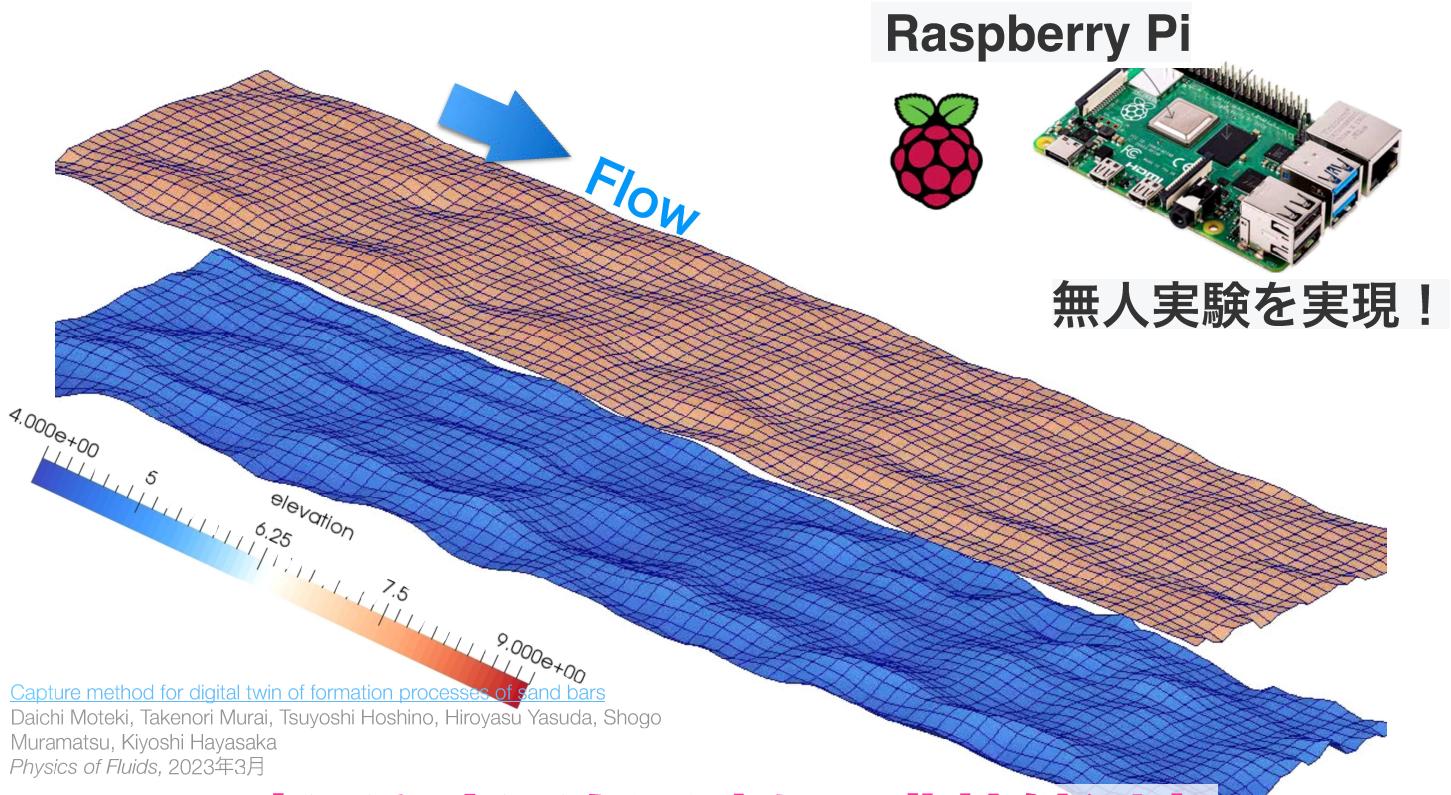
- 木下良作が直線流路に周期的な河床形状の出現を発見



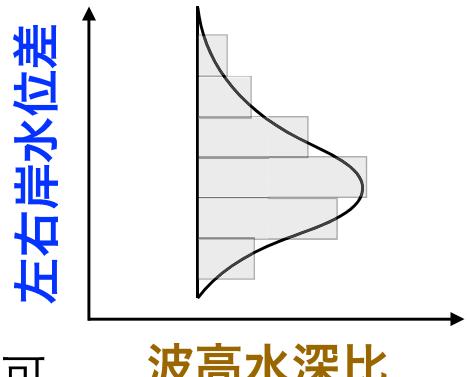
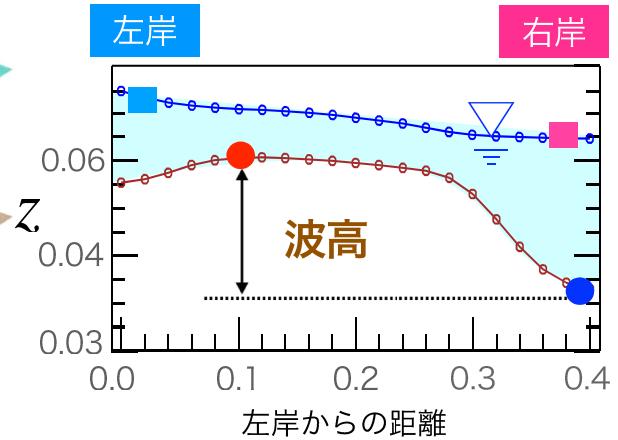
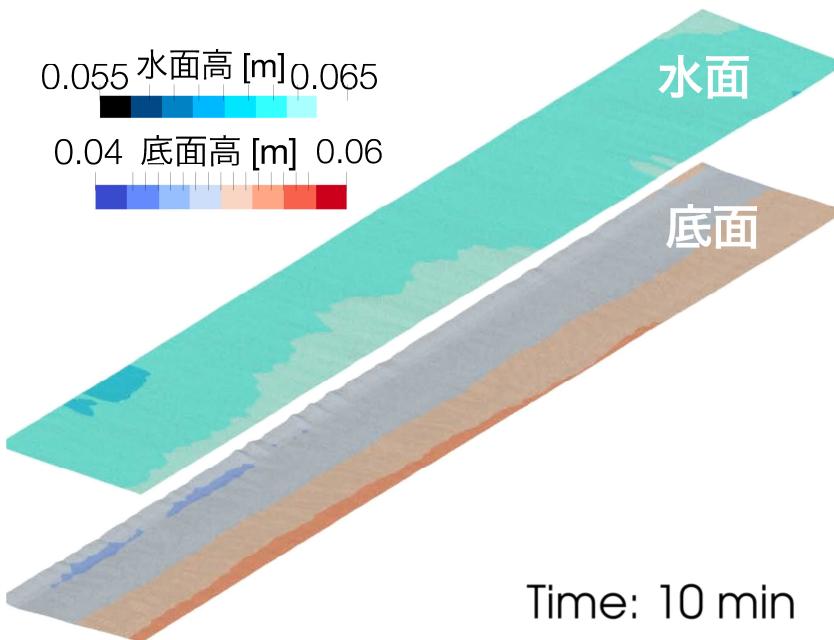
- 砂州の発生の有無は川幅水深比が規定
- 発生機構、移動速度、砂州上の流れと水深は不明

水面・底面の非接触型の測定法

- 流水中の水面と底面の 1cm^2 の高分解能な測定



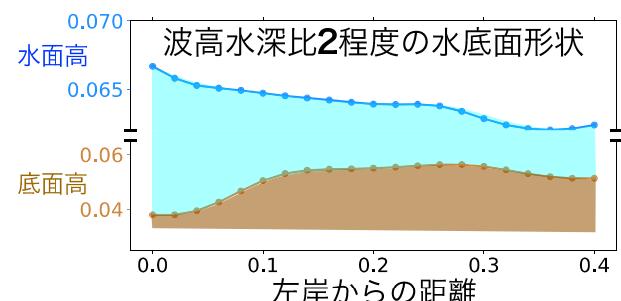
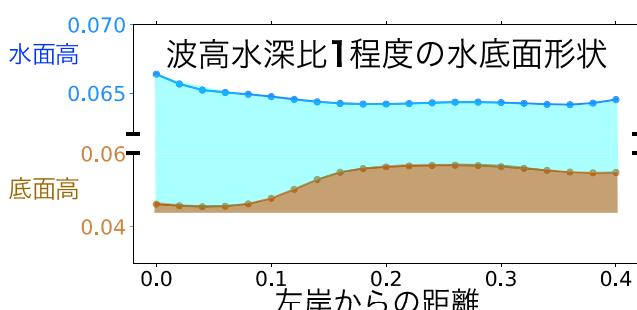
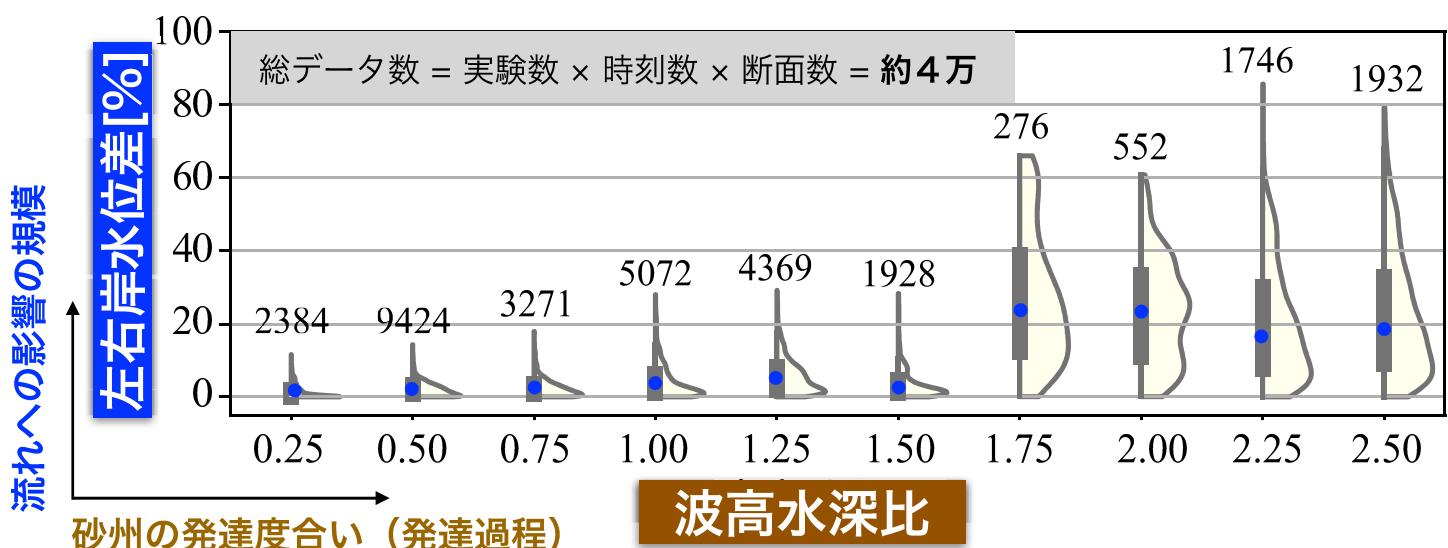
砂州形状と流れの対応関係の把握



- 疑似固定床として測定可能
- 河床波の発達などのデジタルツインを構築可

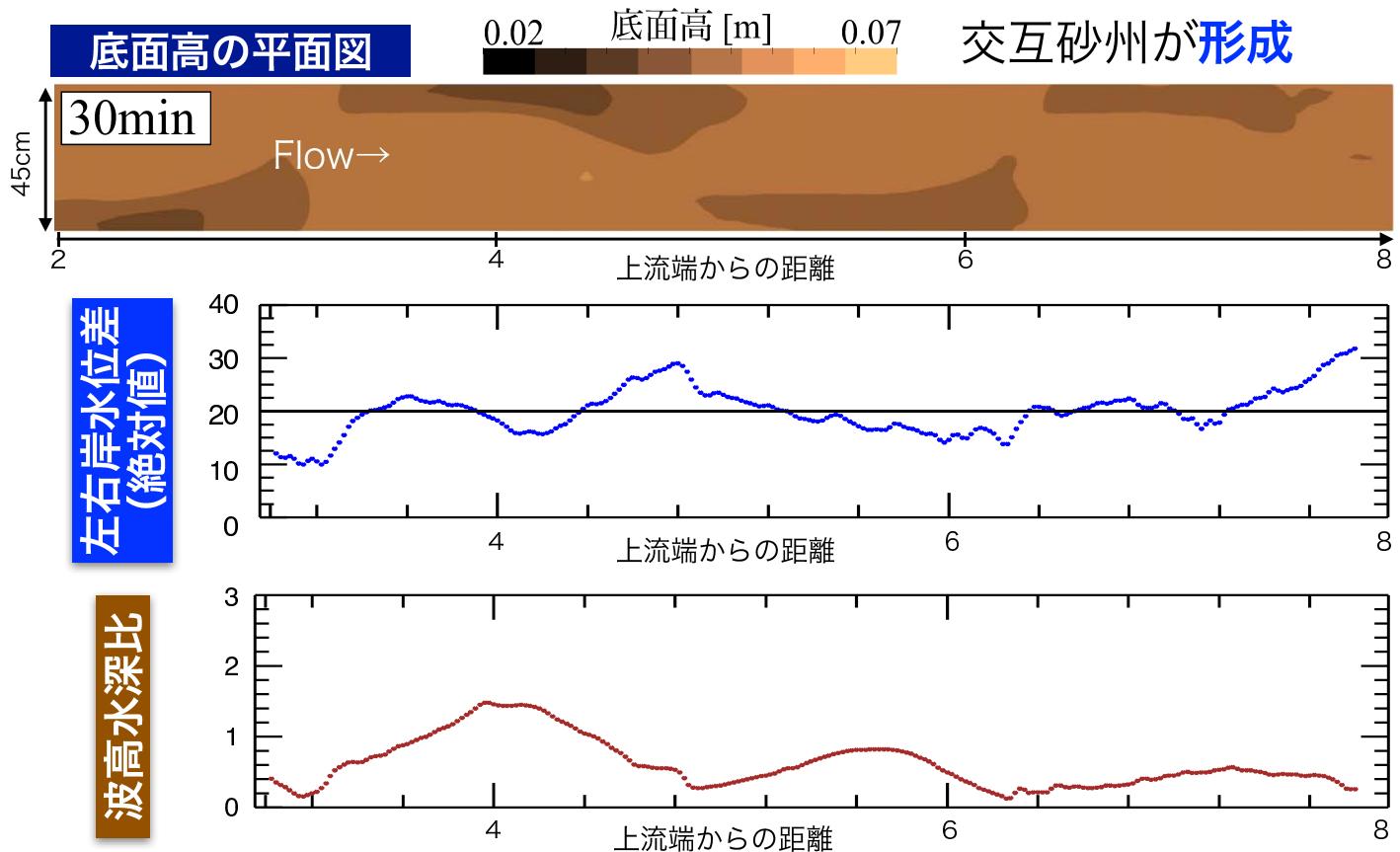
波高水深比と水位差の対応関係を定量化

波高水深比と左右岸水位差の関係



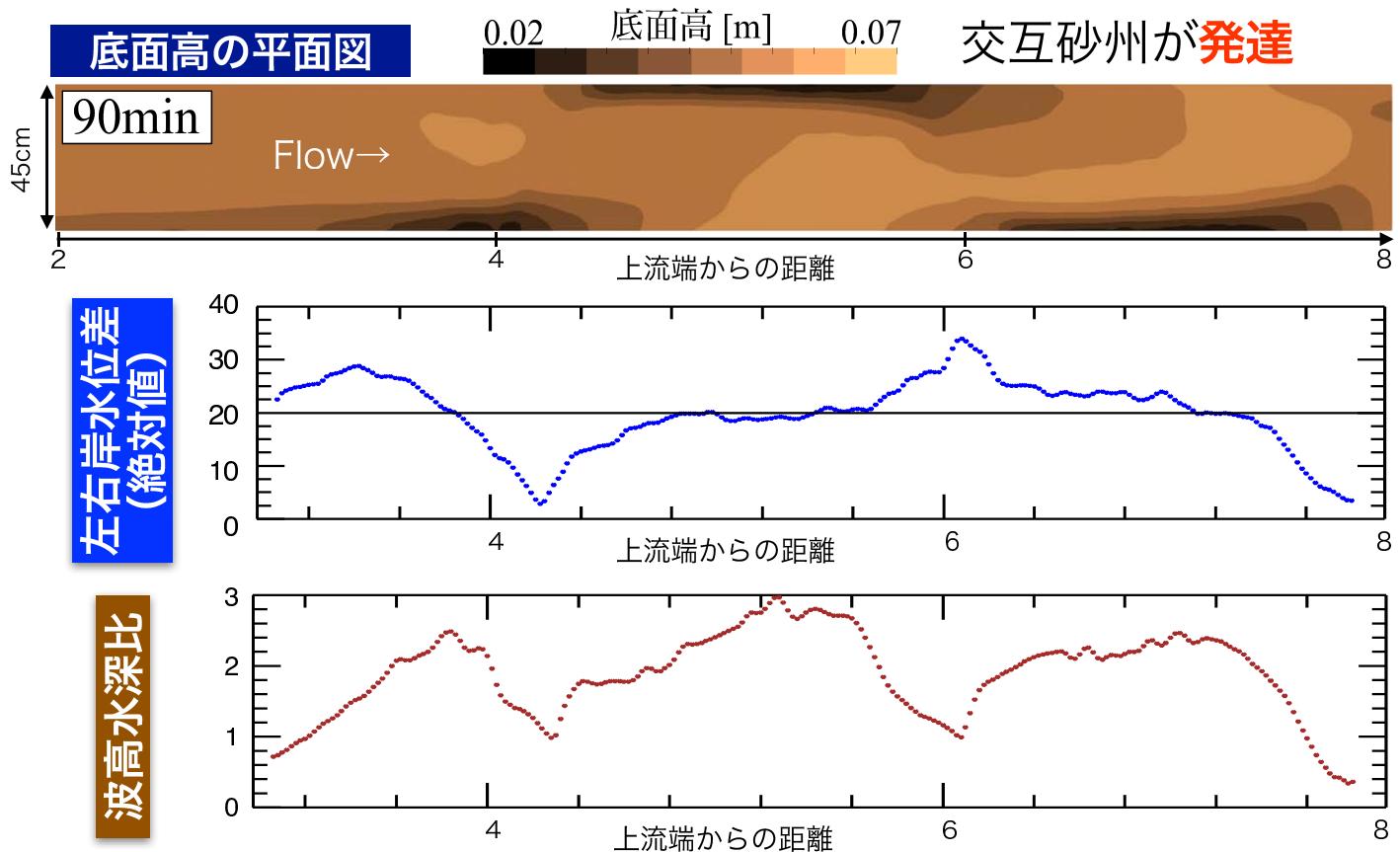
波高水深比1.5を境に水位差の分布が急変

交互砂州が流れに及ぼす影響の規模



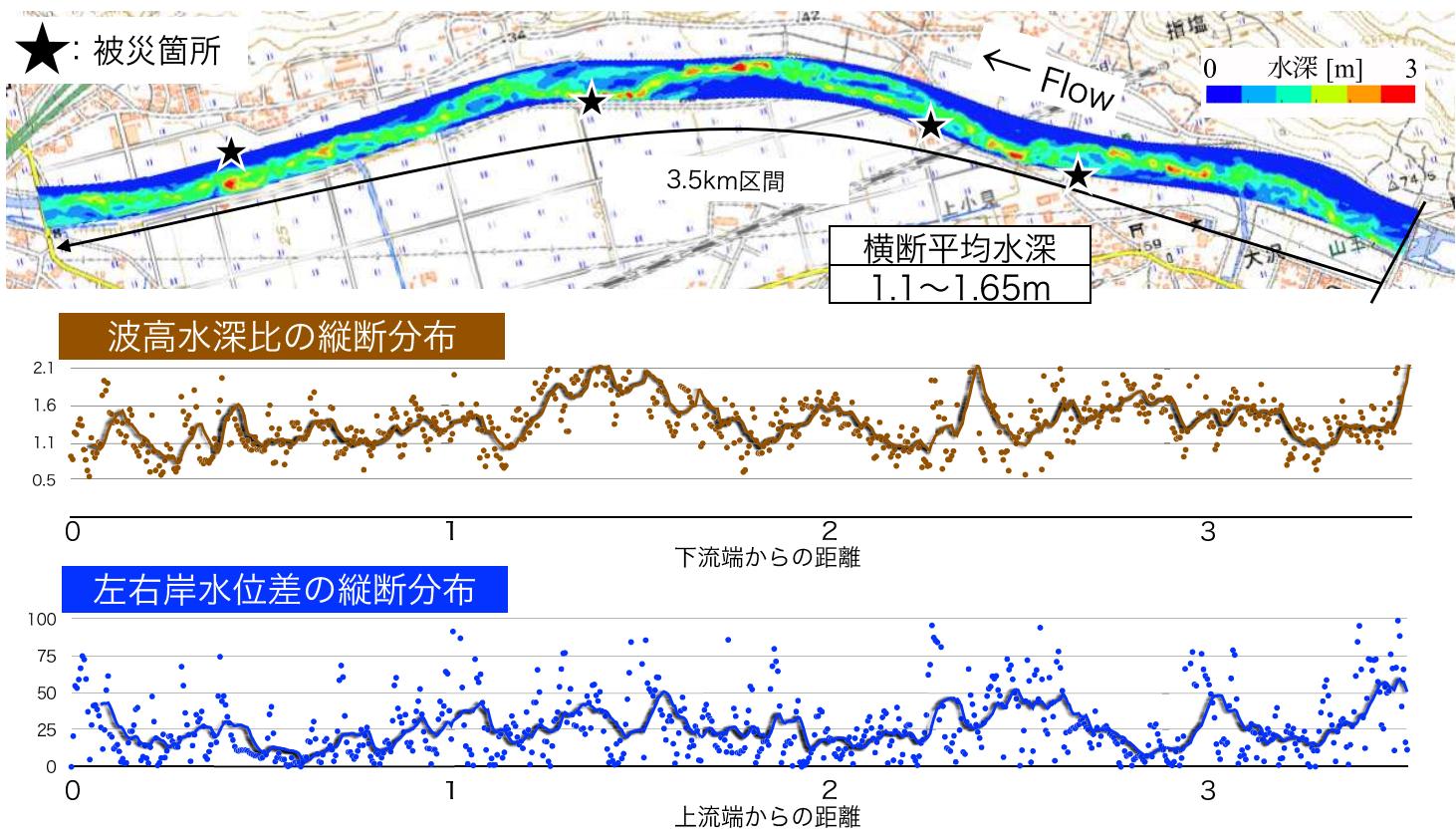
波高水深比の増加に伴い左右岸水位差が拡大

交互砂州が流れに及ぼす影響の規模



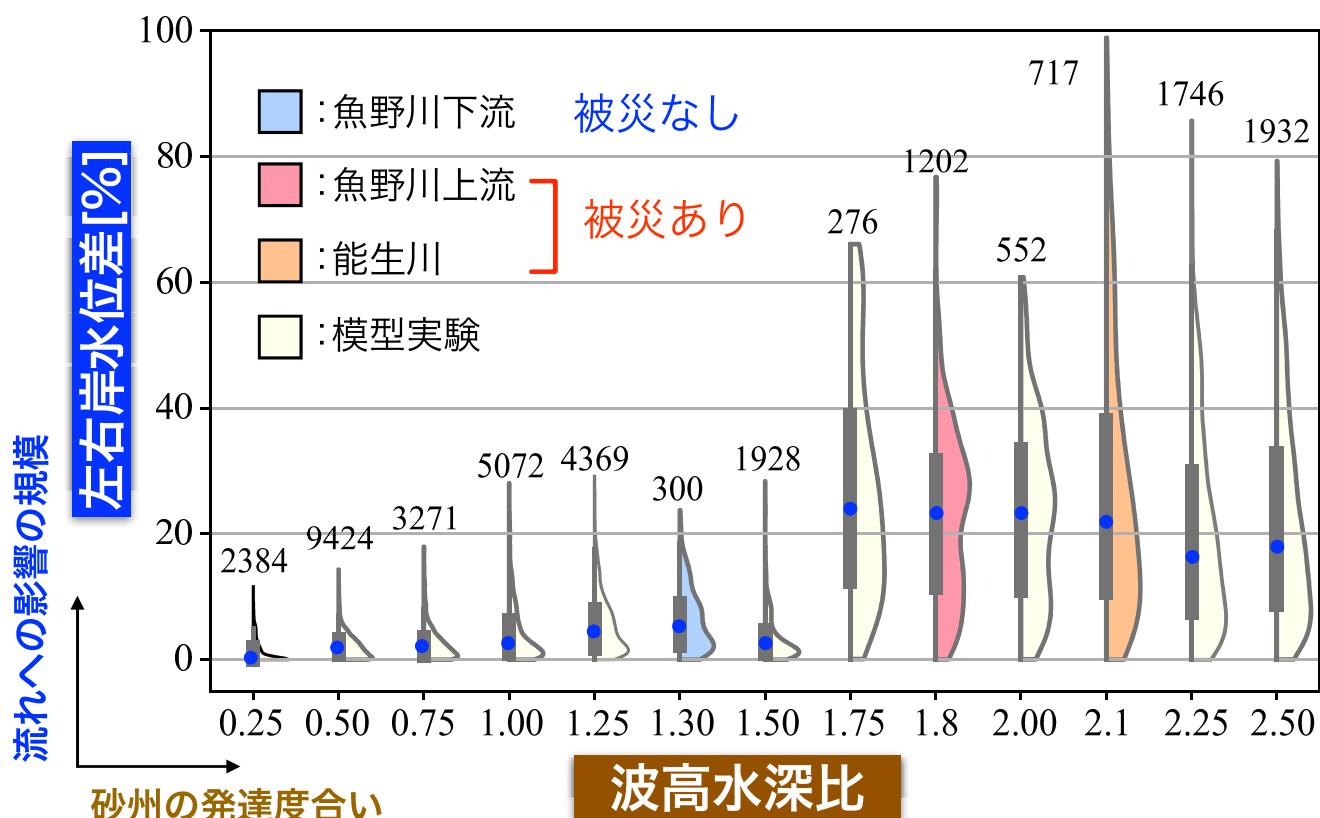
波高水深比の増加に伴い左右岸水位差が拡大

能生川の波高水深比と水位差の関係



発達した砂州が存在し、水位差の分布も大きい

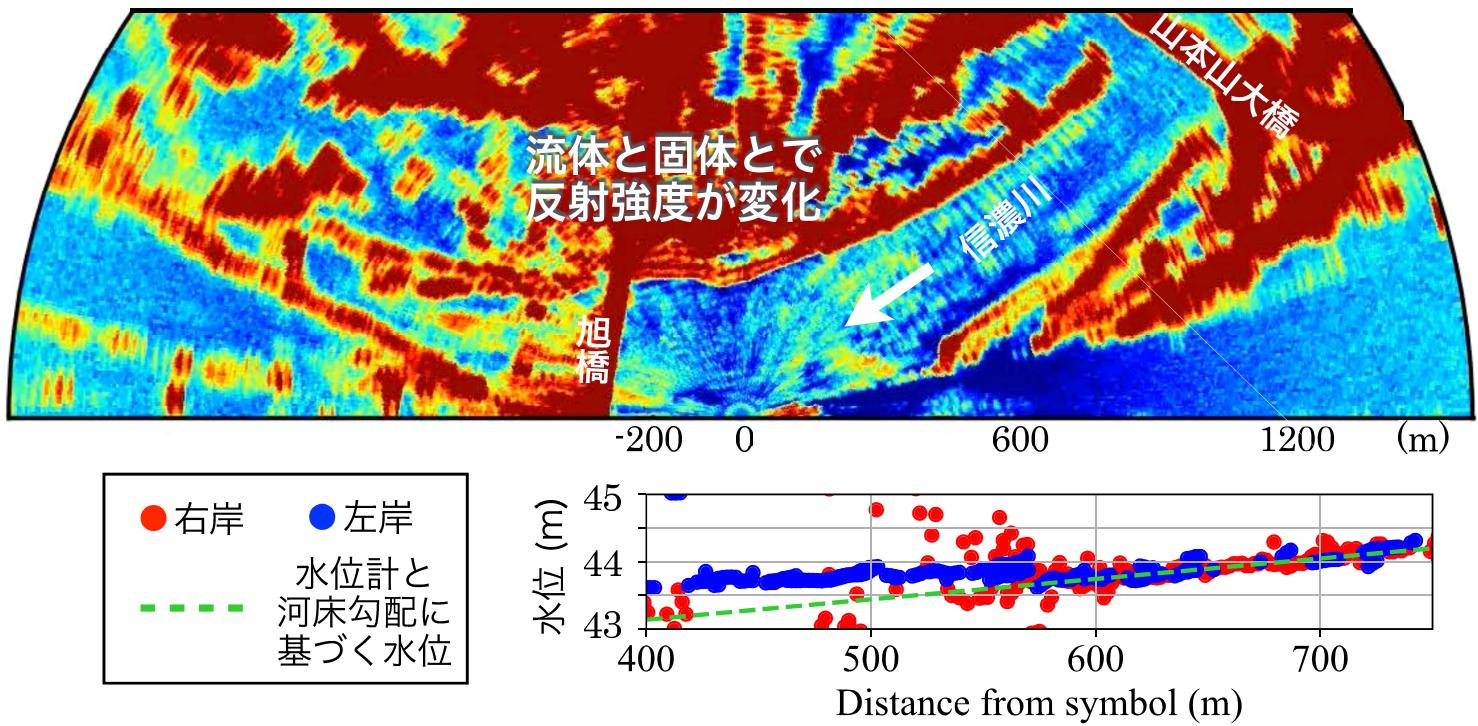
波高水深比と水位差の関係



発達した砂州による侵食被災の誘発を実証

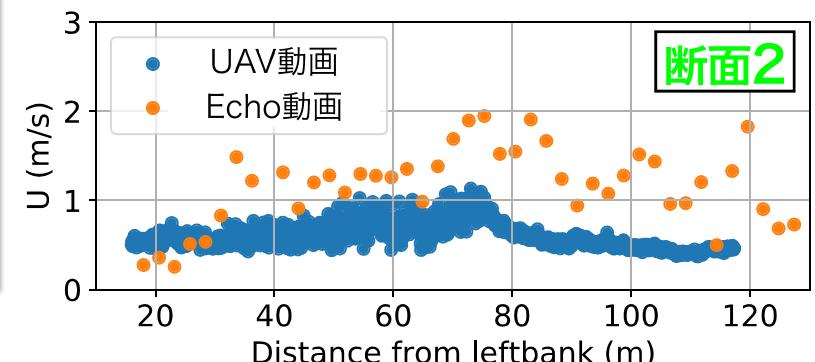
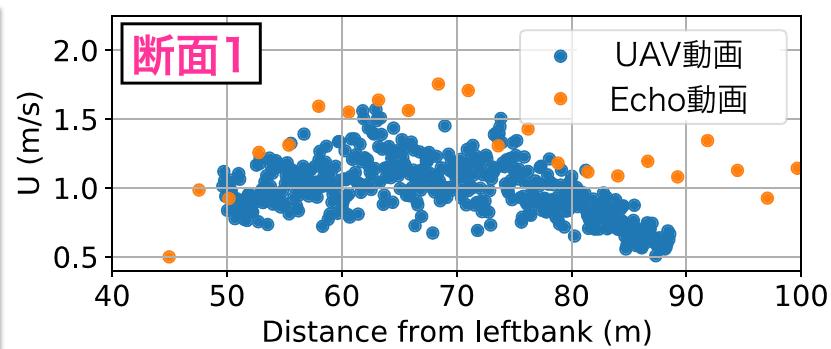
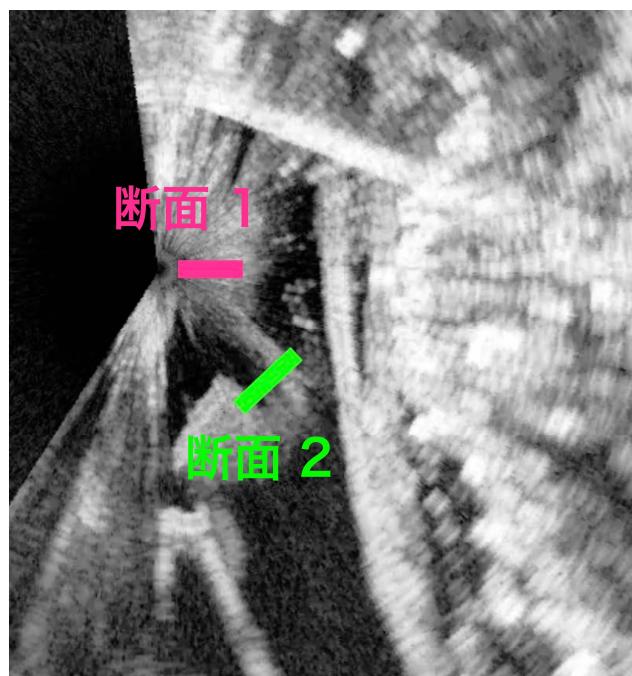
実河川の平面二次元計測・水位

- マイクロ波で取得した**実河川の平面2次元の測定値**に基づき左右岸の各々の水位を数m間隔で測定



昼夜と悪天を問わずに水位と越流箇所の検出が可能

実河川の平面二次元計測・流速

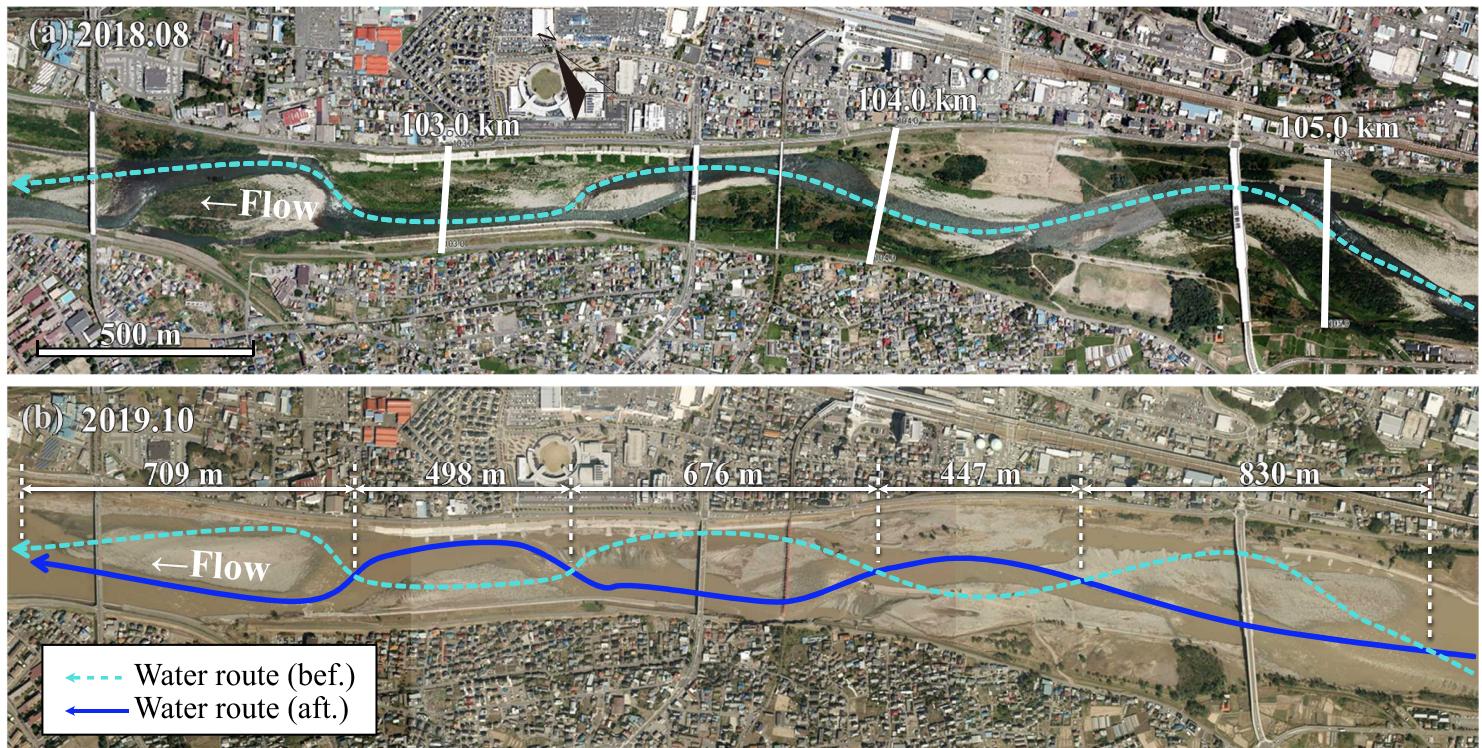


解像度	時間間隔
反射強度	2.8 (m/pix)
動画	0.08 (m/pix)

表面流速を広範囲・高密度に推定できる可能性が示唆

移動速度の算定式の実河川への適用

千曲川諏訪形地点



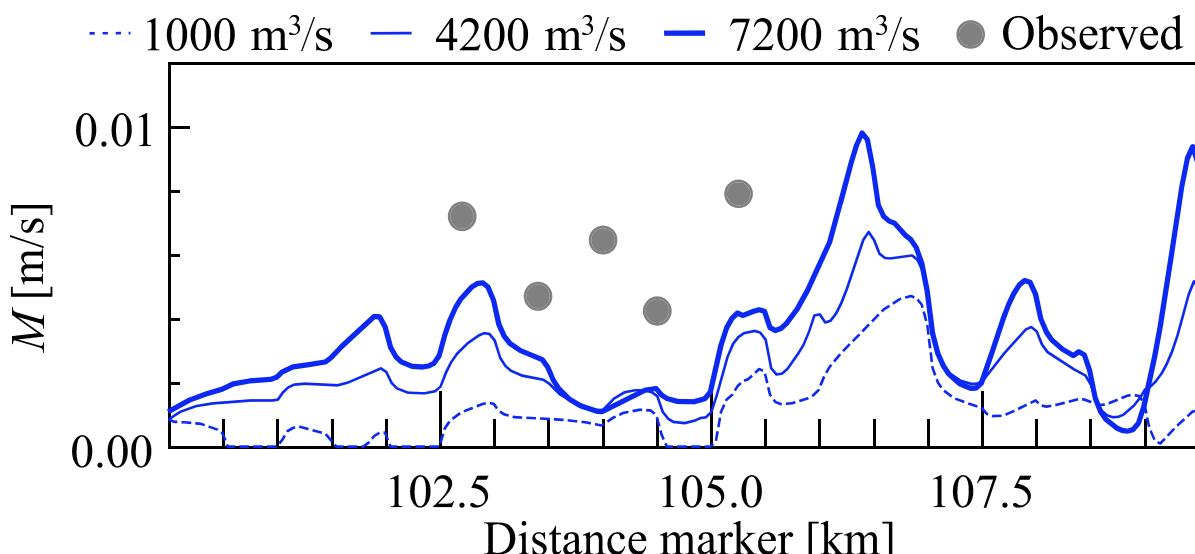
引用・加工：国土交通省、「第2回 千曲川堤防調査委員会資料」

台風19号出水により0.5mm/sの速度で600m程度流下

移動速度の算定値と実測値の比較

- 移動速度の算定式による推定値は実測値とおおむね一致

$$M_x = \frac{4(\tau_* - \tau_{*c})^{1/2} \sqrt{sgd^3} I_e}{sd(1-\lambda)} Y \quad Y = \left[\frac{u}{V} - \frac{\gamma'}{\tau_*^{1/2}} \left\{ 1 - \frac{1}{3\tau_*} (\tau_* - \tau_{*c}) \right\} \frac{\partial z}{\partial x} \right]$$



実河川の砂州の移動速度は全水頭 I_e が支配変数